

平成 25 年度北陸技術士懇談会 総会・特別講演会の報告

北陸技術士懇談会の総会・特別講演会が、平成 25 年 6 月 1 日（土）、ANAクラウンズプラザホテルヴィサージュビル会議室で行われ、40 数名の参加者がありました。今までは、総会見学会として実施してきましたが、諸般の事情により、今回から石川県で総会と特別講演会として実施することになりました。

■総会

総会議事は①平成 24 年度決算②平成 25 年度予算③平成 25 年度年間スケジュール④役員改選と進められ、いずれも原案通り可決されました。



5 年間会の運営のためにご尽力されました屋敷会長は今回でご退任されます。今後、日本技術士会とも、双方がんばっていかねなければいけないと挨拶をされました。今後も相談役ということで関わられます。



最後に女性部会活動報告と、新役員の紹介がありました。現在、女性技術者は 22 名です。（新役員：有澤会長、今度副会長、辰橋理事、屋敷相談役、佐々井事業委員）

■特別講演会

講演に先立ち、有澤新会長より、挨拶がありました。会が益々発展するように尽力していくのでよろしくお願いしたいとのことでした。



講演 1：「和風ソーシャルビジネスのあり方」田村 裕美講師（一般社団法人ソーシャルテクニカ代表理事）



●土木技術者から環境技術者へ

田村氏は、建設コンサルタント時代に最終処分場の調整池の排水設計に関わられた際、近年の降水量の増加から、気候変動に危機感を覚えられました。それをきっかけに温暖化防止の仕事がしたいと考えられ、フリーエンジニアを経て、エスコ事業、エネルギー合理化、バイオマス発電関連事業に、環境技術者として携わられました。また、カーボンマネジメントアカデミー（内閣府雇用創造事業）をプロポーザルで受注された後、ご担当され、2 年間にわたって 1,800 人の受講生にエネルギーの学習会をされました。

●日本技術士会での活動と女性技術者

田村氏は、青年技術士交流実行委員会で初めての女性委員長を務められ、組織運営

や国際交流活動に加え、青年技術士委員会50周年記念誌もまとめられました。

国際交流の際には、日本の女性技術者が少ないことを実感されたということです。

女性技術者に期待することとして、多様性（女性ならではの視点、感覚）、ブランディング（自分の個性を理解し、価値を見える化）、ライバル（いずれ女性技術者同士もライバルになる）をあげられました。

●ドイツ環境リーダー海外研修

セブンイレブン記念財団のドイツ環境リーダー海外研修参加の紹介がありました。連日のディスカッションとレポートがあり、非常に厳しい研修だったそうです。

ドイツには自販機とコンビニがないなど、ゴミ排出を少なくするようになってきているそうです。若い女性でも気にせず穴のあいた手袋をしているなど、物を大切に扱う意識が強いということです。

あわせて北陸で活躍されている環境リーダーの紹介もありました。（萩のゆき・まるやま組、金沢大学の平山奈央子氏）

●日本らしいソーシャルビジネス

ソーシャルビジネスとは、社会問題をビジネスの手法で解決する、もしくは社会貢献を目的としたビジネスで、営利を目的とした会社、無報酬のボランティア活動ではできない課題の解決などに取り組むものです。ソーシャルビジネスでは、社会のために働ける技術者が必要であり、技術士のソーシャルビジネスを創りだしていきたいと締めくくられました。

講演2：「幕末維新の動乱と福井藩～坂本龍馬との知られざる関係～」 松下 敬一講師
（株式会社福井銀行舞鶴支店支店長）



●坂本龍馬と福井・舞鶴の関わり

幕末の時代を福井と舞鶴の視点でお話いただきました。坂本龍馬の海援隊と舞鶴（田辺藩）は当時、唯一商事契約（「海援隊商事秘記」：京都国立博物館所蔵）を結んだ関係だそうです。そういった史実を、銀行でのパネル展や地域イベントで紹介し、地域興しに寄与されています。

●由利公正について

福井藩主松平春嶽のもと、藩財政を再建した幕末の福井藩士です。文久三年に坂本龍馬が福井を訪れた際に、意気投合し交流を深めたということです。

松下講師のご実家（福井市）付近が由利公正居宅跡であることから、自分が語らなければと強い使命感を持たれたそうです。

●橋本左内について

近代国家を構想し、維新の源流となった麒麟と呼ばれた若き天才思想家で、15歳で自己を律する「啓発録」を著したことで福井ではよく知られています。日本の行く末を案ずる先見性のある左内の書簡を解説していただきました。左内も竜馬の影響を大きく受けたということです。

●龍馬の影響を受けた人々と松下氏の思い

龍馬や幕末の志士の影響を受けた著名人として、松下幸之助、孫正義、稲森和夫、安倍総理などをあげられました。

ソフトバンクのブランドロゴは海援隊の旗印がモチーフだということです。

■交流会

研修会后、ANAクラウンズプラザホテル3F瑞雲に移動し、講師を交え交流会を開催しました。和やかな雰囲気の中、講演会で足りなかった質疑や議論が交されました。



文責：事業委員 池田 保裕（福井）